

三小タイムズ 第210号

令和3年3月25日発行 校長 辻 久恵

卒業式 式辞

新型コロナウイルスの感染症予防のためいろいろと制約はございますが、満開の桜のもとで調布市立第三小学校 第73回卒業式が挙行できますこと、たいへん嬉しく思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

お子様が立派に成長された姿を前にされ、お喜びをひとしおのことと存じます。

保護者の皆様、地域の皆様が第三小学校をあたたく見守り、しっかりと支えてくださいましたご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんは、六年間の学校生活の思い出が瞬に焼き付いていることでしょう。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年間でした。私は、コロナ禍において皆さんが取り組んできたこと一つ一つに感心しています。

臨時休校明けにまず取り組んだことは、コロナウイルス飛沫防止のための「蓋つきごみ箱」の作成でした。すべての教室に届けられ、活用されています。

その後も、廊下や階段などに掲示された皆さんが作成した「あいてますか」のポスターのおかげで、学校全体が「あいてますか」を合言葉にして、「あいだをあける」「手を洗う」「マスクをつける」「かんきをする」を徹底させることができました。

そして、何といっても運動会の代わる「三小ギネス」を成功させた功績は大きいです。

校医の先生からコロナについて伺い、今までのような運動会は不可能と知り、プロジェクトチームを立ち上げました。

全校児童にアンケートを取り、実施できる種目を決め、全校に知らせるため、校舎内は様々な種目のポスターでいっぱいになりました。

当日の運営も皆さんが行いました。フラフープ、反復横跳び、輪投げ等、どの学年の子どもも「自分の記録を伸ばすこと」を目指して頑張っていました。

その上、大学院の方からアドバイスをいただきながら創り出した数々のニュースポーツを全校児童に披露して、運動の楽しさをみんなで味わうことができました。

コロナだからできないではなく、コロナ禍でできることを生み出し、企画・運営にあたった皆さんは計り知れない力をつけてきました。

六年生にお世話してもらっていた皆さんが、最高学年として一年生のお世話をするやさしいお兄さん、お姉さんになり、コロナ禍において創造力を働かせ、リーダーとして第三小学校のために生き生きと働く姿から、成長ぶりをひしひしと感じ、感動すら覚えました。

ここで、卒業にあたって私から皆さんにメッセージを送ります。「夢の実現に向けて全力を尽くしてほしい」ということです。

- ・近い将来、10人中9人は、今と違う仕事をしている。
- ・20年以内に今の仕事の47%は 機械が行う。
- ・65%は、今はないまったく新しい職業に就く。とこれからの社会について述べられています。

今、正に誰も予想だにできなかったウィズコロナの時代を乗り越えてきた皆さん、総合的な学習の時間に様々な方々の生き方、あり方から将来自分はどうのように生きていきたいのか真剣に考えを深めてきた皆さんですので、この先、どのような社会であろうと自分の進むべき方向性をきちんと見定めて突き進んでいってくださることと信じています。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ夢と希望に向かって羽ばたくときがやってきました。

みなさんが、長い歴史と伝統ある第三小学校の卒業生として誇りをもって光流れる多摩川から大海原へ旅立つことを願い、私の式辞と致します。